



60

株式会社アサツー ディ・ケイ
第60期 中間報告書
平成26年1月1日～平成26年6月30日

証券コード:9747

ADK<



「伝える」の先へいく。

消費者にメッセージを伝えるだけでなく、
具体的に動かすこと。

それこそが ADK のコミュニケーション・ビジネス。

その実現のために、私たちは
情熱をもって行動しつづけます。

新しい VI には、消費者にアクションを起こさせるという、
私たちの強い意志が込められています。

コンシューマー・アクティベーション・カンパニーへ。

新しい ADK です。

ADKは、 コンシューマー・アクティベーション・ カンパニーです。

デジタル技術の発展によるメディアやコミュニケーション・デバイスの多様化に伴い、消費者の生活行動や購買行動が急激に変化しています。また、今日のグローバルな競争環境の中で企業が成功するためには、技術・製品力に次ぐ新たな力が必要とされています。それは、日々変化しつづける消費者を、新しい情報テクノロジーによって確実に捉えるマーケティング力、消費者を惹きつけて離さないブランディング力、そして消費者を実際に動かすアイデア力だと、私たちADKは考えます。

Data Insight



消費者に行動を起こさせる、その動機となるものは何か。私たちは、蓄積されたデータと高度な分析力から、インサイトを見つけ出し、消費者を動かすアイデアを生み出していきます。

Content Business



単に番組の広告枠を買切るだけでなく、番組の企画・制作から、キャラクターの商品化／広告販促使用、劇場公開映画でのタイアップ、海外への番組販売にも注力。ミュージカルやライブ事業も手掛け、多様な体験を提供するビジネスを展開しています。

Global



WPPとの資本・業務提携を活用し、業界屈指のメディア調達力、幅広いデータベース、そして世界の隅々を網羅するネットワークを構築しています。これらをベースに、ADK独自のプログラムで、広告主のマーケティング投資効果の最大化を図ります。

Creative



ADKのクリエイティブに求められているものは、消費者を動かすためのアイデアと表現。この当たり前のことを「徹底」するために、常に「これは世の中をゆさぶるものなのか」という自問自答を繰り返し、クリエイティブディレクターを中心に個のアイデアを磨き上げていきます。

平成26年12月期の 第2四半期決算について ご報告申し上げます。

左：代表取締役・取締役会議長 長沼 孝一郎
右：代表取締役社長・グループCEO 植野 伸一



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、4月15日開催の取締役会において、新たに長沼孝一郎が代表取締役に選定され、同日就任いたしました。長沼と植野の両名を代表取締役とする新体制のもと、複雑化する経営課題に迅速かつ的確に対処すべく経営体制の一層の強化を図り、当社グループの更なる成長に向けて努力してまいり所存でございます。

さて、第60期第2四半期（平成26年1月1日から平成26年6月30日まで）を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

当期間のわが国経済は、米国経済の堅調な推移や、政府および日本銀行の継続的な経済対策や金融政策を背景に、企業収益の改善や設備投資の持ち直

しがみられるなど、緩やかな回復基調となりました。個人消費においては、消費税率引き上げ後に一時的な減速がみられたものの、増税前の駆け込み需要や雇用・所得環境の改善に伴い、概ね堅調に推移しました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、広告業の売上高は、平成25年4月より平成26年3月まで前年同月比で12ヵ月連続プラスとなりました。消費税率引き上げ後の平成26年4月に0.4%減となったものの、5月に2.1%増に転じるなど、広告業界は概ね堅調に推移しています。

このような環境のもと、当社グループは消費者にメッセージを伝えるだけでなく、具体的に消費者を動かし購買行動を喚起する「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」への転換を目指す

「VISION 2020」を掲げ、コンシューマー・アクティベーションの実現に向けたソリューション基盤の整備、国内外のグループ会社との連携強化、得意とするコンテンツビジネスの拡大など、ビジネスモデルの複合化およびグループ基盤の構築に向けた施策を推し進めました。

以上の結果、当期間における連結売上高は1,744億89百万円（前年同期比0.0%増）と前年同期比でほぼ横ばいでしたが、利益面においては、収益管理体制の更なる厳格化に取り組んだことにより、売上総利益は246億25百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益は21億28百万円（前年同期比17.7%増）となり、これに受取配当金をはじめとした営業外収益19億40百万円および営業外費用1億2百万円を計上し、経常利益は39億66百万円（前年同期比17.3%増）となり、前年同期を上回る結果となりました。特別利益を3億45百万円計上した一方で、当社をはじめとしたグループの事務所移転費用などの特

< 通期連結業績の見込み

売上高は前期比でほぼ横ばい、収益管理体制の厳格化などにより営業利益および経常利益は前期を上回るものの、移転費用などの特別損失の計上により、当期純利益は前期を下回るものと見込んでおります。

売 上 高	348,800 百万円
営 業 利 益	3,700 百万円
経 常 利 益	5,600 百万円
当 期 純 利 益	2,770 百万円
1株当たり当期純利益	66.20 円

(注)上記の数値は、平成26年8月12日に公表いたしました平成26年12月期第2四半期決算短信の情報を基に記載しているため、その後に公表される訂正情報や業績予想修正に関する最新の情報等を厳密に反映していない場合がございます。これらの情報につきましては、当社ウェブサイトにてご確認ください。

別損失18億23百万円を計上した結果、税金等調整前四半期純利益は24億88百万円（前年同期比31.3%減）となり、四半期純利益は12億55百万円（前年同期比40.6%減）となりました。

なお、当社単体の売上高は1,522億5百万円（前年同期比0.2%増）、売上総利益は180億96百万円（前年同期比8.1%増）、営業利益は19億93百万円（前年同期比15.4%増）となりました。賞与引当金繰入額および本社移転に伴う費用など、一部の販管費の増加がありましたが、売上総利益率改善の施策が奏功し、増益となりました。

当社グループは、更なる成長を実現させるべく、これまで以上に企業体質の強化を進めてまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年9月

< 配当方針

当社は、平成26年12月期より、配当政策を配当性向基準から総還元性向基準に変更し、自己株式取得を含む年間総還元性向の目安を連結当期純利益の50%に設定いたしました。1株当たり年間配当の下限は引き続き20円といたします。中間と期末の割り振りとしては、中間基準日配当は従来どおり安定的に10円を原則とし、期末基準日配当は10円または年間総還元性向50%の目安を達成する金額のいずれか高い額といたします。なお、当面配当回数は従来どおり年2回とする見込みであります。

中間基準日配当 1株につき **10円**

支払開始日 平成26年9月16日

虎ノ門ヒルズ森タワーへ本社オフィスを移転

新オフィスのコンセプトは、「ADK POWER IDEA CAMP」

仲間と手を取り合い、おなじ炎を見つめ、おなじ唄を口ずさんだ、あのキャンプのように。みんなが心をひとつにして、仕事と向き合うことができれば、きっと、強いアイデアが生まれるにちがいない。だからADKは、新しいオフィスのコンセプトを“ADK POWER IDEA CAMP”に決めました。

05



虎ノ門ヒルズ森タワー

< 会議室エリアには、ユニークな環境で利用者のアイデアを引き出す「アイデア会議室」を設置しました。



瞑想の部屋

瞑想にふければよいアイデアも出てくるのではないかと。「禅」をイメージした会議室です。白で統一された空間の中で、靴を脱ぎ、床に座って机を囲みます。



ツボの部屋

ツボを刺激してアイデアを創出、ということで壁面にツボのグラフィックと偉人達の名言・格言をあしらいました。



スター・アイデア・ルーム

頭をやわらかくしてアイデアを生み出すため、リラックスできるサロンをイメージした会議室です。天井には星空をイメージした照明が配置されています。

ADK<<

株式会社アサツー ディ・ケイ



ビレッジ

各フロアの執務エリアには、「ビレッジ」と呼ばれる共有スペースが設けられ、社員間の偶発的な出合いや、コミュニケーションを通じた新たなアイデアの誕生を演出します。



ドラえもん会議室

ADKの歴史と共に歩んできた「ドラえもん」をコンセプトにした会議室です。振り返ると、入ってきたドアは「どこでもドア」。ユニークなアイデアを生む特別な空間です。

< ADKコーポレートサイトもリニューアルしました。

トップ画面では新しく生まれ変わったVIを大胆に表現しました。更に多様な情報を「情報プラットフォーム」的に配置することで、アクティブな会社であることを印象付けます。

また、タブレットやスマートフォンに対応するレスポンスデザインを採用しています。

新ADKのイメージを印象付けるトップ画面

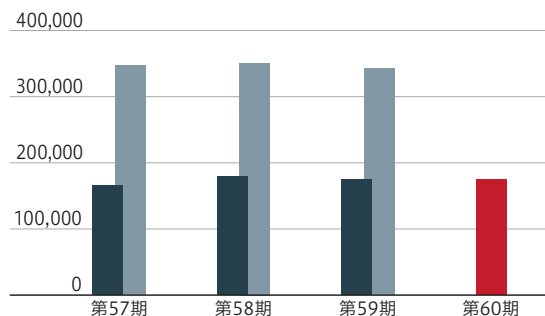


www.adk.jp/

＜ 連結決算の概況

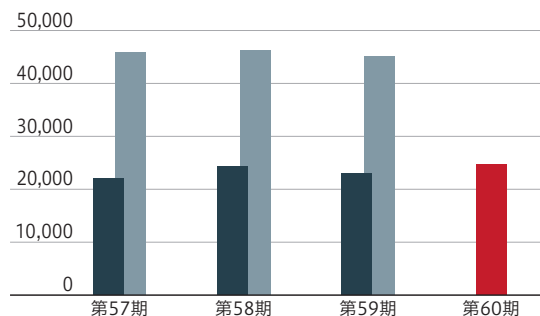
＜ 売上高

(単位:百万円)



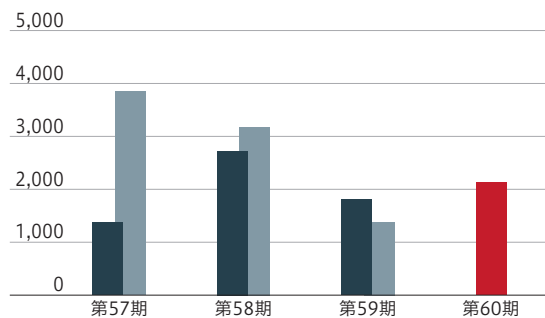
＜ 売上総利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期
(単位:百万円)



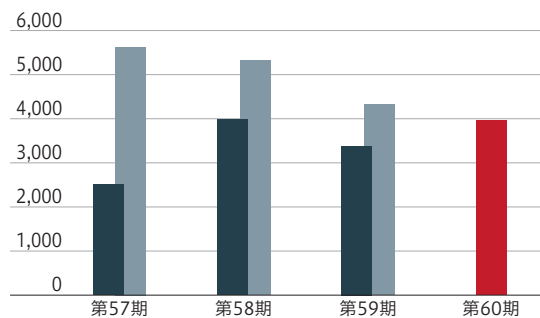
＜ 営業利益

(単位:百万円)



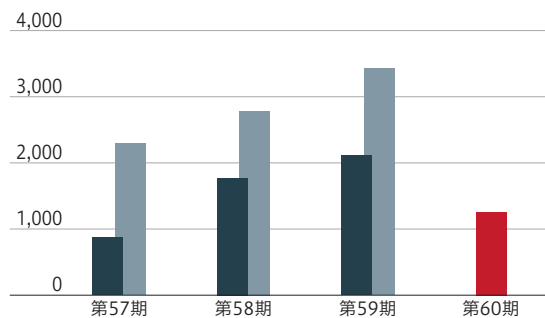
＜ 経常利益

(単位:百万円)



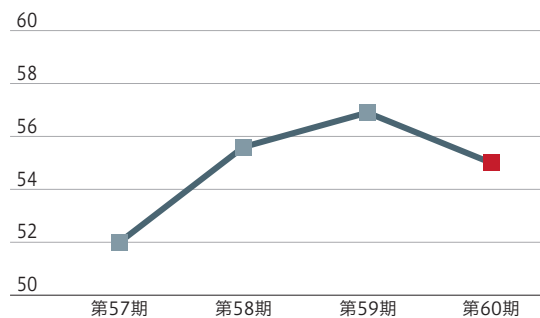
＜ 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



＜ 自己資本比率

(単位:%)



< 損益関連

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成26年1月1日から 平成26年6月30日まで)	前第2四半期 (平成25年1月1日から 平成25年6月30日まで)
売上高	174,489	174,469
売上総利益	24,625	23,046
営業利益	2,128	1,807
経常利益	3,966	3,381
四半期純利益	1,255	2,114

< 資産関連

(単位:百万円)

	当第2四半期末 (平成26年6月30日現在)	前期末 (平成25年12月31日現在)
流動資産	127,321	128,932
固定資産	96,626	99,238
負債合計	100,041	97,197
純資産	123,906	130,972
総資産	223,947	228,170

資産関連増減POINT

- 資産合計は、時価の下落による投資有価証券の減少などにより、前期末に比べ42億22百万円減少の2,239億47百万円となりました。
- 負債合計は、投資有価証券の時価下落に起因する繰延税金負債の減少があったものの、仕入債務の増加などにより、前期末に比べ28億43百万円増加の1,000億41百万円となりました。
- 純資産合計は1,239億6百万円、少数株主持分および新株予約権を除いた自己資本比率は55.0%となりました。

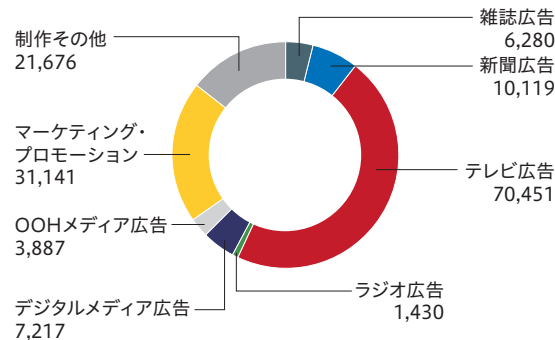
< キャッシュ・フロー関連

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成26年1月1日から 平成26年6月30日まで)	前第2四半期 (平成25年1月1日から 平成25年6月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	9,265	8,948
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,197	1,281
財務活動による キャッシュ・フロー	△5,739	△5,753
現金及び現金同等物 の期末残高	32,829	33,061

〔ご参考〕

区分別売上構成比(単体) (単位:百万円)



- (注) 1. 広告市場の成熟化やメディア環境の多角化に伴い、当社は広告主にクロス・コミュニケーション・プログラムを提供しており、媒体別の売上を厳密に分別することが困難な場合があります。従って、上記の区分別売上は厳密に媒体別の売上を反映していないことがあります。
2. テレビには、タイム・スポット、コンテンツが含まれます。
3. デジタルメディアには、インターネット、モバイル関連メディアが含まれます。(WEBサイト制作・システム開発などデジタルソリューションは「マーケティング・プロモーション」に含まれます。)
4. OOH(アウト・オブ・ホーム)メディアには、交通広告、屋外広告、折込広告などが含まれます。
5. マーケティング・プロモーションには、マーケティング、コミュニケーション・プランニング、プロモーション、イベント、PR、博覧会事業、デジタルソリューションなどが含まれます。

会社の概況

平成26年6月30日現在

＜ 会社の概要

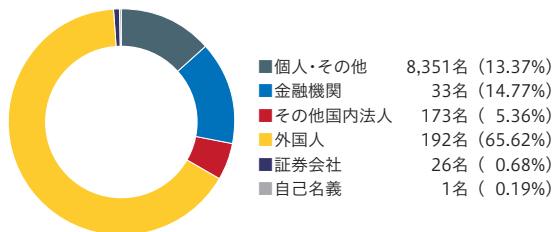
商号	株式会社アサツ ディ・ケイ
英文表記	ASATSU-DK INC.
略称	ADK
本店所在地	〒105-6312 東京都港区虎ノ門一丁目23番1号 03-6830-3811(代表案内)
設立	昭和31年3月19日
資本金	375億8,136万6,100円
従業員数	1,888名(単体)
ウェブサイト	http://www.adk.jp

＜ 取締役および監査役 平成26年8月19日現在

代表取締役・取締役会議長	長沼 孝一郎
代表取締役社長・グループCEO	植野 伸一
取締役	加藤 武
取締役	大芝 賢二
取締役	スチュアート・ニーシュ
取締役	木戸 英晶
取締役	梅田 望夫
取締役	牛島 信
監査役(常勤)	境 芳郎
監査役(常勤)	太田 浩司
監査役(常勤)	市川 亮
監査役	吉成 昌之

- (注) 1. 平成26年8月18日の経過をもって取締役酒井吉廣氏は辞任により退任いたしました。
 2. 取締役木戸英晶氏、梅田望夫氏および牛島 信氏は社外取締役であります。
 3. 監査役太田浩司氏、市川 亮氏および吉成昌之氏は社外監査役であります。

＜ 保有者別分布 (株式数比率)



(注) 株式数比率は、小数第3位を四捨五入して表示しております。

＜ 株式の状況

- 発行可能株式総数 206,000,000株
- 発行済株式の総数 42,155,400株
- 株主総数 8,776名

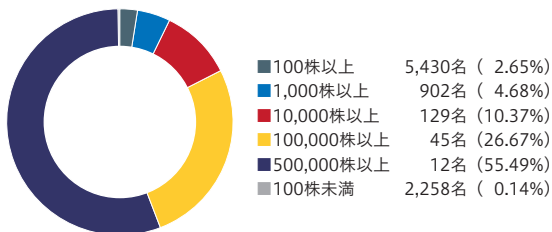
(注) 発行済株式の総数には自己株式(79,652株)を含んでおります。

＜ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ダブリューピーピー インターナショナル ホールディングピーヴイ	10,331	24.51
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,587	6.14
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフシー ユーエスタックス エグゼンプテド ベンション ファンス	1,597	3.79
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	1,535	3.64
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌブイ 10	1,490	3.54
ノーザントラスト カンパニー (エイブイ エフシー) アカウント ノントリーティ	1,192	2.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	940	2.23
ゴールドマンサックスインターナショナル	870	2.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	821	1.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・三菱商事株式会社口)	765	1.81

(注) 持株比率は、小数第3位を四捨五入して表示しております。

＜ 保有株式数別分布 (株式数比率)



< 連結対象会社の状況



● 日本

- 株式会社協和企画(東京都港区)
- 株式会社ADKインターナショナル(東京都港区)
- 株式会社ADKアーツ(東京都港区)
- 株式会社ボーイズ(東京都中央区)
- 株式会社ADKダイアログ(東京都港区)
- 株式会社エイケン(東京都荒川区)
- 株式会社ADKデジタル・コミュニケーションズ(東京都港区)
- 株式会社日本文芸社(東京都千代田区)
- 株式会社ライトソング音楽出版(東京都港区)【新規】
- 株式会社パイオメディス インターナショナル(東京都港区)【新規】
- 株式会社ADK保険サービス(東京都港区)【新規】
- 株式会社DAサーチ&リンク(東京都港区)
- 株式会社ドリル(東京都渋谷区)
- 株式会社エイエスピー(東京都新宿区)
- 株式会社プレミア・クロスバリュー(東京都千代田区)【新規】

● ヨーロッパ

- アサツーヨーロッパホールディング(アムステルダム)
- アサツーヨーロッパ(アムステルダム)
- ノッツヨーロッパ(アムステルダム)
- アサツードイツ(フランクフルト)

● 米国

- エイディケイアメリカ(ニューヨーク)

● アジア


- アサツー ディー・ケイホンコン(香港)
- ディケイアドバタイジング(香港)
- 旭通世紀(上海) 広告有限公司(上海)
- 上海旭通広告有限公司(上海)
- 旭通(上海) 展覧広告有限公司(上海)
- 聯旭国際股份有限公司(台北)
- 太一廣告股份有限公司(台北)
- アサツー ディー・ケイシンガポール(シンガポール)
- エイディケイタイホールディング(バンコク)
- アサツータイランド(バンコク)
- アズディック(バンコク)
- ダイイチキカクタイランド(バンコク)
- アサツー ディー・ケイマレーシア(クアラルンプール)
- アサツー ディー・ケイベトナム(ホーチミン)
- ディアイケイベトナム(ホーチミン)
- IMMGシンガポール(シンガポール)【新規】
- 北京IMMG国際文化伝媒有限公司(北京)【新規】
- IMMGインドネシア(ジャカルタ)【新規】
- スクープアドワールド(シンガポール)【新規】
- ダイイチキカクマレーシア(クアラルンプール)【新規】
- アサツー ディー・ケイコリア(ソウル)【新規】
- 広東広旭広告有限公司(広州)
- 北京東方三盟公共關係顧問有限公司(北京)【新規】

● 連結子会社

● 持分法適用会社

(注) 連結対象会社の内訳は、連結子会社が37社であり、持分法適用会社が6社であります。

< 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
1単元の株式数	100株
剰余金配当の基準日	毎年6月30日および毎年12月31日 この他、必要があるときはあらかじめ公告して定めます。
株主総会の基準日	毎年12月31日 この他、必要があるときはあらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル4階) 東京証券代行株式会社 なお、お取次は三井住友信託銀行株式会社全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i-Stationを除く。)にて行っております。
同連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター  0120-49-7009
公告方法	電子公告(http://www.adk.jp) ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株式に関する 手続きのご案内	①ご住所等、各種株主様情報の変更に関する届出 ②配当金の受取方法のご指定 ③単元未満株式の買取・買増請求 以上のお手続きに関しましては、株式を一般口座(証券会社に開設されている取引口座)にてご保有の方は、取引口座のある証券会社へ、また、特別口座にてご保有の方は、上記株主名簿管理人へお問い合わせください。

ADKのIRサイトでは過去の決算情報、IRカレンダー、本冊子のPDF版など多様なコンテンツを掲載しております。
また、メール配信サービスにご登録いただくことで最新のIRニュースを配信いたします。

ADK IR



www.adk.jp/ir/

